

宿泊施設の公共化

ー三浦市城ヶ島の地域価値とホテルの在り方ー

Keywords

観光史 宿泊 地域活性化
拠点 歩く 健康 海業



DZ20152 森 文希

1. はじめに

1.1 研究背景

日本経済を支える1柱である観光業。少子高齢化の影響により、地域経済を支えるためにも必要不可欠な要素となっている。しかし、観光産業である宿泊施設の多くは、利益を重視し地域との連携から乖離していると感じ、地域と宿泊施設との「地域性乖離」に注目した。

1.2 研究目的

本研究では、宿泊施設が観光客以外にも空間を開くことで、ツーリズム（観光産業）としての目的地性を担保しながら地域の中核の場（交流や産業の発展）として機能することで、地域活性や持続的な地域文化/資産の保有を目標とする設計提案を行う。

2. 調査内容

2.1 目的地化していく宿泊施設

近年、地域の観光資源を目的とせずに、宿泊施設自体を目的とした利用が増加傾向にある。

背景として、コロナショックによる「三密」を避ける行動が根強く人々の残っており、「なるべく接触をしない旅行」をしたいという心理的側面があると考えられる。（出典：日本国際観光学会論文集 第29号）

表1より、コロナショック前後の累計宿泊者人数をグラフで見ると、2年間を経て、宿泊利用者が2倍以上に戻っている。



※上表の青字の数値は、日本人及び外国人の延べ宿泊者数を合計した全体の数値である。

表1：令和3年～5年の宿泊者推移（観光庁より引用）

また、表2のグラフより、コロナショック前の2019年と比較すると、同月比が0に収束していることがわかる。

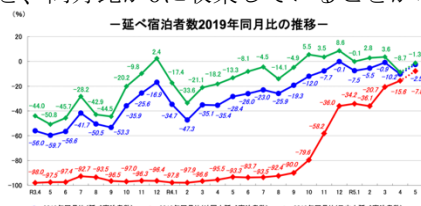


表2：宿泊者数2019年同月比の推移（観光庁より引用）

コロナショックを境に、宿泊施設の需要も変化したことがデータからも読み取れる。

2.2 観光の定義

観光：他の国や地方を訪ね、風景・史跡・風物などを見聞したり体験すること。（※日本観光士会より）

観光と旅行との大きな違いは、風景や史跡などの見物する「経験」を重視していることである。

2.3 観光史から読み解く、観光の移り変わり

図1は、古来より「学び」として行われてきた観光がどのように移り変わったを表している。



図1：観光史の移り変わり

19世紀の産業革命により、長距離移動が安く早く安全となった。産業革命の影響により、1851年第1回ロンドン万博博物館開催に向けトーマス・クックが娯楽や見物を「商品」として扱う事業を立ち上げた。この事業が現在の旅行代理店に当たり、観光を大衆化させた大きな出来事である。

西洋と日本で観光の歴史は異なるが、産業革命での交通機関発達により世界が繋がったことで、観光は学びから産業として移り変わった。

3. 仮説

地域の文化を維持し伝える場でもあり、観光客だけでなく住民にも利用価値のある「拠点」となる宿泊施設が地域には必要だと考える。

4. 対象敷地

4.1 神奈川県三浦市城ヶ島西部地区



写真1：城ヶ島西部地区（GoogleEarthより作成）



写真2：旧ホテル既存壁箇所（GoogleEarthより作成）

オランダでは「クアオルト健康ウォーキング」が地域活性化の手法として注目されている。地域のガイドと一緒に歩き、環境や文化をガイドしていくものである。これは「観光的側面/健康的側面/地域活性化」の3点を兼ね備えている。クアオルトの要素を取り入れ「歩く健康」をコンセプトに引き、地域産業と自然環境を体験し学び癒される宿泊施設をプログラムとする。

観光客だけでなく住民も日常的に利用できるような宿泊施設を目指した設計提案を行う。

6.2 建築プログラム

敷地面積：6000m²

建築面積：2370m²

高さの最高限度：14.5m

客室面積：24m² 50m²

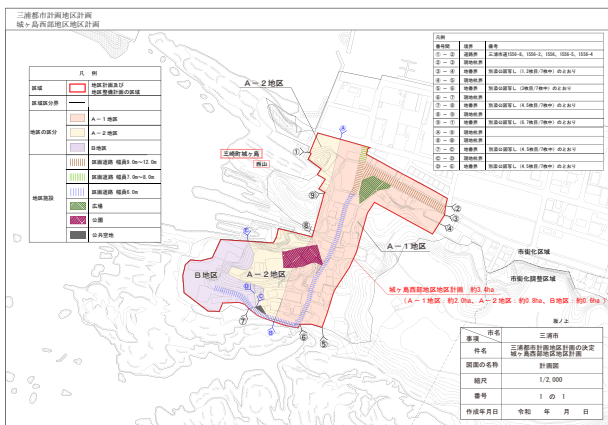


図2：城ヶ島西部地区地区計画

図2のB地区を設計対象敷地として設定する。ここは、2020年に老朽化のため解体された京急ホテル城ヶ島跡地である。敷地周辺には、地元の海産物が味わえる商店街や住宅街が混在している。

この地域は、観光名所ともなっている約3.3kmのハイキングコースがあり、馬の背洞門などの奇妙な自然地形を見ることができる。また、漁業・水産業を核に商業、観光、工業といった様々な分野を結び付け、複合的な産業を生み出すことを指す言葉「海業」を日本で1番盛んな地域にするという目標を掲げている。

6. 設計提案

6.1 設計趣旨

三浦市の文化や歴史を残すために、既存ホテルの跡地をそのまま利用する。また、一部残っている既存壁を活用する。

7. 終わりに

宿泊施設が地域と空間を共有することは、地域への価値向上にもつながる。そして、第一次産業の雇用増加や移住者増加などの大きな問題解決につながると考える。宿泊施設を公共化することが、今後の地域活性化の1つの解決策になることを期待する。

※参考文献

- 観光庁：宿泊旅行統計調査令和5年4月分（第2次速報値）
<https://www.mlit.go.jp/kankochou/siryou/toukei/content/001616673.pdf> 2023年7月10日閲覧
- 旅と観光の世界史（通史）著：石井昭夫
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~akil41/sub5.html> 2023年11月7日閲覧
- 神奈川県三浦市HP：城ヶ島西部地区地区計画について
https://www.city.miura.kanagawa.jp/material/files/group/36/jougas_himaseibukeikakuzu.pdf 2023年11月7日閲覧
- Google Earth
<https://www.google.co.jp/earth/> 2024年1月16日閲覧
- 日本国際観光学会論文集 第29号
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jafit/29/0/29_77/_pdf/-char/ja

テーマ: **宿泊施設の公共化** —三浦市城ヶ島の地域価値とホテルの在り方—

宿泊施設が観光客以外にも空間を開くことで、ツーリズム(観光産業)としての目的地性を担保しながら地域の中核の場(交流や産業の発展)として機能することで、地域活性や持続的な地域文化/資産の保有を目標とする設計提案を行う。
施設が地域と空間を共有することで、地域への価値向上に繋がり、第一次産業の雇用増加や移住者増加などの大きな問題解決につながると考える。宿泊施設を公共化することが、今後の地域活性化の1つの解決策になることを期待する。

08 Plan 1階平面図

